

“小池新党”の脅威が起爆剤

「ポスト安倍」で動き始めた？ 自民党の派閥大再編の兆し

政治ジャーナリスト 鈴木哲夫

麻生氏は新キングメーカーか

締め込み姿で登場した麻生太郎副総理兼財務相に、観客からは一斉に大歓声が上がった。福岡の夏の祭りと言えど博多祇園山笠。「おいさ！おいさ！」の掛け声とともに、1t近くある山（やま）が多くの男衆に担がれて町の中を疾走する。

7月13日はその前夜祭的な「集団山見せ」が行なわれ、その山の上には「台上がり」と呼ばれる地元の重鎮などが毎年選ばれて座るのだが、今年は何と麻生氏が福岡市長らと一緒に座ったのだ。

驚いたのは地元福岡の政界・財界関係者ら。なぜなら、地元の福岡では麻生氏は遅かれ早かれ引退するのではないかと思われていたからだ。

「麻生さんも76歳ですよ。台上がり、締め込みで疾走する山に乗っかって勢い水を浴びせられ、相当な体力がいります。そもそも、九州の財界で活動し始めているご子息に引き継いで次は引退、と地元では多く

の関係者が思っていました。ところが、台上がりに登場するなんて、元気なので驚きましたね。国政でまだまだ俺はやる、と皆に意思表示したんだと噂されています」（自民党福岡県連幹部）

安倍内閣の支持率低下は深刻だ。読売新聞が36%、朝日新聞が32%だったのに続いて、時事通信社が7月7日～10日に行なった調査では、危険水域と呼ばれる「30%」を遂に切つて29・9%だった。さらに毎日新聞は26%。

自民党幹部の1人は「2007年に第一次安倍政権が一気に求心力を失つて退陣したのが、同じく30%を切った僅か9か月後だった」と警戒する。

安倍政権はこれまでも内閣支持率が下がったことはあったが、「今回は全く違う」と言うのは、安倍首相に近いベテラン議員だ。

「安保法制で支持率が一気に下がったが、あれは政策を巡つてのもの。政策には賛否あるから一定の批判は

仕方ないし、一旦決まってしまうば世論も収まる傾向にある。その他の内閣改造や外交などで加点して支持率を戻せる」

今回の加計学園の獣医学部新設も、国家戦略特区という政策的な問題ではある。ところが、国民が引っ掛かっているのは政策そのものではないようだ。

「一強の驕りで、文書や記憶など曖昧な説明しかない、国会を閉じて逃げる、人格攻撃とも思えるような発言をするなどして来た。その結果、批判の矛先は安倍政権側の人間性というか、感情的なところに来ってしまった。稲田朋美防衛相にケジメをつけないことなど、お友達、最良も重ならぬ。政策面での理性的な批判なら挽回できるが、人間性や感情となると跳ね返すのは難しい」（同ベテラン）

自民党の安倍首相に距離を置くりベテラン議員はこう話す。

「都議選の大敗北と支持率の低下で、今度は自民党内でもポスト安倍へ向



「志公会」を結成した麻生太郎氏(財務省)



岸田文雄氏は疑心暗鬼? (外務省)

けての動きが出て来る可能性がある。安倍首相は来年9月の自民党総裁選で3選を狙っていて、これまでは党内の一部の反安倍以外はこれを容認する空気があったが、支持率が長期低落に入れば『安倍おろし』だって起きる」

「大宏池会」構想と疑心暗鬼

そこで、今党内で俄然その動きが注目されているのが、まさに締め込み姿で意気込みを見せた麻生氏なのだ。

都議選で自民党が大敗したその翌日の7月3日、自民党の麻生派(為公会)と山東派(番町政策研究所)が合流し、新派閥「志公会」が正式に発足した。会長には麻生氏が就任し、党内では安倍首相を輩出して

いる細田派に次いで第二派閥となった。

そもそも麻生氏は、以前から派閥の再結集を公言してきた。

「麻生さんは保守本流を自負していた元宏池会。麻生氏は昔の宏池会のメンバーが結束して『大宏池会』を復活させようと主張していた。麻生派に山東派、事故で入院リハビリ中の谷垣禎一前幹事長の谷垣派、岸田文雄外務相率いる岸田派と一緒になろうというものです。その中で合意できた麻生派と山東派が先行して一つになったということです」(志公会幹部)

麻生氏と言えば、第二次安倍政権樹立当初からこれを支えてきた一人。それには、麻生氏と安倍首相との人間関係があるという。

麻生氏自らが首相だった2009年に民主党に政権奪取されたが、この時に安倍氏が麻生氏の元に毎日のように訪れ、励まし続けた経緯があると麻生氏周辺は言う。

「義理人情に熱い麻生さんは、あの恩は忘れない。俺は安倍政権をとことん支えようと貫いている」(麻生氏側近議員)

このため、「大宏池会構想」も直接的に安倍政権を脅かすものではないとしている。麻生氏は、「安倍政権を力強く支えていくことが国益につながる」と思っている。我々は安倍政権をど真ん中で支えていくことには一点の曇りもない。新しい政治の形として(党内で)大きな政策集団2つを考えていく。2大派閥が一致して安倍政権を支えれば、党内で大きな波風は立ちようがない」と話している。

ところが、麻生氏の言葉を額面どおりに受け取れないのは、今支持率などが下がりはじめて窮地に立ちつつある安倍首相の周辺だ。

「麻生さんは、派閥を拡大してキングメーカーとなり、総理・総裁レースで主導権を握ろうとしているのではないか」と警戒感を示すのは安倍

首相の側近議員の一人。

「大宏池会構想が実現すれば、人数規模は1000人を超えて細田派を抜き党内第一派閥となる。すると、今は安倍首相を支えると言っているが、キングメーカー狙いではないか。派閥拡大で、もし、安倍首相に何かあれば、緊急に現政権を継続するという意味で、副総理の麻生氏自身の再登板も可能。そうでなくても最大派閥の数をハックに、来年9月の総裁選の段階になって、今は安倍首相の3選を支持するような空気を出しているが、どんな条件をつけてくるか分からない。危険だ」

実は、そうした麻生氏に警戒感を持つているのは、安倍首相周辺だけでなく、何と麻生氏が合流しようと呼びかけている岸田派もまたそうだというのだ。

岸田氏は、ポスト安倍の有力候補とされる一人。大宏池会に参加すれば、麻生氏は「いずれ岸田氏が大宏池会の総理・総裁候補の一人になり得る」と周囲に話しているというが、岸田派も麻生氏に対して疑心暗鬼になっている部分があるというのだ。

「大宏池会になれば会長は麻生氏で、キングメーカーになる。それは麻生



危機感強める？額賀福志郎氏

否めない。

「経世会」は、かつては自民党の最大派閥として君臨。「経世会」にあらずんば人にあらず」とまで言われたほどだ。

竹下氏や橋本龍太郎氏、小渕恵三氏の3首相を輩出した他、金丸信元副総理や青木幹雄元官房長官らが、党役員人事や国会運営に影響力を発揮。小沢一郎氏、梶山静六氏らも経世会の一員として永田町を表裏で操った。

しかし、小泉純一郎首相が登場して以降、自民党内では抵抗勢力と敵対視され力を失っていた。第2次安倍政権発足後も額賀氏は存在感を発揮できず、額賀派幹部は「このままではうちだけ取り残されてしまう」と危機感を抱いている。

7月4日に額賀派は結成30周年の非公開会合を開いたが、この席で、「安倍首相が3選するのはどうなのか」「総裁候補のいない派閥は派閥と言えない」など、特にOB議員からの厳しい意見が相次いだという。

「茂木敏充政調会長や加藤勝信1億総活躍担当相がいるが、一気にポスト安倍というところまでの存在感には至っていない」(額賀派幹部議員)

そうした中で出ているのは、一つは他派閥との連携だ。別の額賀派幹部が言う。

「かつて、経世会にいて政治改革などを巡って飛び出して行つたのが、石破茂前地方創生相。その石破氏はポスト安倍の有力候補として地方の人氣などは高いが、永田町の議員票は少ない。石破派の人数も19人。ならば、過去の恩讐を超えて、石破氏と連携し、石破氏を総裁候補にして戦うという方法もある。また、麻生氏のやり方に疑心暗鬼になっている岸田氏の派閥と組んで、岸田氏を支えてもいい。かつて、経世会の金丸さんや小沢、梶山諸先輩は政局に強く、そうした思い切った手を打って局面を開いて来た。政局の経世会、したたかな経世会の伝統を、こどもう一度復活させるべきではないか」

この他、既存の派閥だけでなく新しい動きも出て来た。それは、ペテランの現自民党税調最高顧問の野田毅衆議院議員が代表を務める勉強会だ。

筋金入りの、財政再建論者である野田氏は、一強と言われる安倍政権の経済政策「アベノミクス」には限界が来たと断言し、この5月に自

民党内に「財政再建に関する勉強会」を立ち上げた。

参加しているのは自民党内で大胆な金融緩和と政策に否定的な議員ら、つまり安倍首相に距離を多く面々である。

勉強会はこれまで2回開かれたが、いずれも本人・代理出席合わせて80人が参加した。参加者の1人は「いよいよ党内で安倍一強に対抗する政策集団発足だ」と明かす。

野田氏は、安倍首相批判を含めこう言う。

「最初から政局を云々と言うことじゃないが、じゃあ政権にイエスマンで、はい賛成とだけ言えというのか。それはありえない。安倍首相は、2014年に消費税を延期して、その信を問うと解散総選挙をしたが、逆に消費税を上げてその信を問うべきだった。社会保障費はどんどん増えている。責任逃れだ。安倍首相はそこが分かっていない」

勉強会メンバーの中には、女性初の総理・総裁候補に名の挙がった野田聖子元総務会長なども参画している。経済政策を中心にした新たな政策集団が派閥的な色合いを強め、ポスト安倍へ動き出すかもしれない。

支持率低下で蠢き始めた「派閥」

「(岸田派議員)」

こうした警戒感には岸田氏自身も抱いているとされ、「大宏池会構想に慎重な姿勢でいるのはそれが根底にあるから」(同岸田派議員)だという。

一方、自民党内にはもう一つ伝統の派閥がある。竹下登元首相が旗揚げした自民党「経世会」の流れを汲む額賀派(平成研究会、額賀福志郎元財務相が会長)だ。

麻生氏の派閥再編「志公会」によつて、それまでの第二派閥から第三派閥に転落。派閥の再編が活発化する中額賀派は取り残されている感

(本人HP)



重鎮・野田毅氏の動きも注目

政局へ「小池新党」の存在

一方、政局を左右する動きとして、都議選で圧勝した小池百合子東京都知事率いる会派・都民ファーストが、今後、国政の舞台へ進出するかどうかが目される。

小池知事の盟友で、都議選に合わせて自民党を離党した若狭勝衆議院議員は、都議選後「年内に国政新党への動きが出てくることは流れとしてあり得る」と断言した。小池新党の次期総選挙への動きが顕著になれば、その期待値から安倍内閣の支持率にも影響を与え、安倍首相の解散総選挙戦略にも影響を与えることになる。

では実際に、次期総選挙で小池新党が旗揚げした場合、どれだけの議席を確保できるのか。こんな試算がある。

今回の都議選では、都民ファーストの全候補が集めた票は約190万票。これらは、非自民であり、共産党や公明党や民進党には乗らない新しい政治の流れを求める票だ。次の国政選挙で小池新党ができれば、この票がそのまま流れて行くことは充分考えられる。東京における190万票とはどれだけの規模なのか。

「もし、東京の25の小選挙区や比例で候補を擁立すると、共同通信などは190万票をシミュレーションして20人の当選者を出せるとしているようです。実際は、選挙区ごとの事情や自民党候補別の強さなどあつて20人とはいかなくとも、こちらが候補を工夫したりして190万をうまく配分できれば、軽く二桁、場合によっては確かに20人に近づける当選者を出せる可能性があります」（小池知事周辺）

また、東京でカギを握るのは公明党との関係だ。公明党は、都議選は小池知事と連携したが、中央では自公協力で捻じれている。その矛盾は解決されるのか。

小池知事側近の1人は、先の日本維新の会の初陣のケースを挙げる。

「2012年の総選挙では、大阪維

新の会が地域政党から国政へ出ましたが、19ある選挙区の内、公明党が出馬している4つの選挙区には、維新の候補を出さなかった。そして、他の選挙区では、互いの事情があるからと、ケースバイケースで干渉したり、選挙区事情に任せたりした。そうやって住み分けて公明党は4人全員当選、維新は12選挙区で勝利。もちろん割を食ったのは自民党や民主党（当時）でした。公明党本部も、全体の自公協力は崩さなかったが、『大阪には大阪の事情がある』で片づけた。東京での小池新党と公明党の関係もそれは可能はずです」

そして、その選挙で地域政党である維新が、全国で54議席を取ったケースを重ねてこう言う。

「維新は強さを誇る近畿で20人以上、その他全国の比例で2〜4人ずつ取つて54人。小池新党も東京で20人すでに動きが出ている九州や東北、愛知などで比例は計算できます。当時の橋下徹ブームと同じように50人は可能です」

また、この側近は「知事自身が出馬することはないが、党代表は小池知事以外に考えられない」とした上で、「維新の場合は首長の橋下氏と

国政側は石原慎太郎氏の二枚看板だった。小池新党の場合誰が共同代表になるかもポイント」と話す。

これについて都民ファースト幹部は、「今、小池新党を待望しているとされる渡辺喜美参議院議員や長島昭久衆議院議員、若狭さんの他に、自民党の中から反安倍の名のある議員を一本釣りするのではないかという噂もある」と言う。

小池新党の動向次第で、「安倍首相は、小池新党への期待が高まらない内に、また準備が整う前に解散を打つことだつて考えるかもしれない。つまり年内解散もあり得る」（自民党幹部）との声も出始めた。

長い一強が生んだ驕りや緩みが都議選の大敗北につながり、総裁選やポスト安倍へ自民党は大きく揺れ始めている。（8月2日現在）

(東京都)



小池新党は50議席獲得との下馬評も